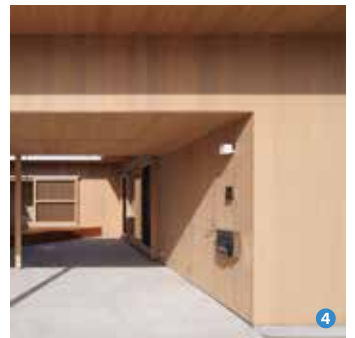


# 審査委員特別賞 鳥取県

木村 智彦  
 合同会社グラムデザイン  
 一級建築士事務所  
 【作品名】  
 上道の家2



①「コ」の字型のプランに対して45度で斜めに室内の床を貼ることと合わせ、中庭に三角形のデッキをつくることで、家族の私的空間である室内と中庭の一体感を強調されるようにも考えた。  
 ②中庭側に大開口のFIXと木製建具が並びリビングダイニング。

③④外部の杉板は、働き幅を113mm(455mm/4)で製材し、墨出しによる丁寧な割付を行うことで外壁と軒先の目地も全面揃えて貼り付けている。1mほど伸ばした軒は、雨から外壁を守り、内部と中庭へ差し込む日差しも調整している。

設計 合同会社グラムデザイン一級建築士事務所  
 施工 株式会社 辻工務店  
 竣工日 2019年3月12日

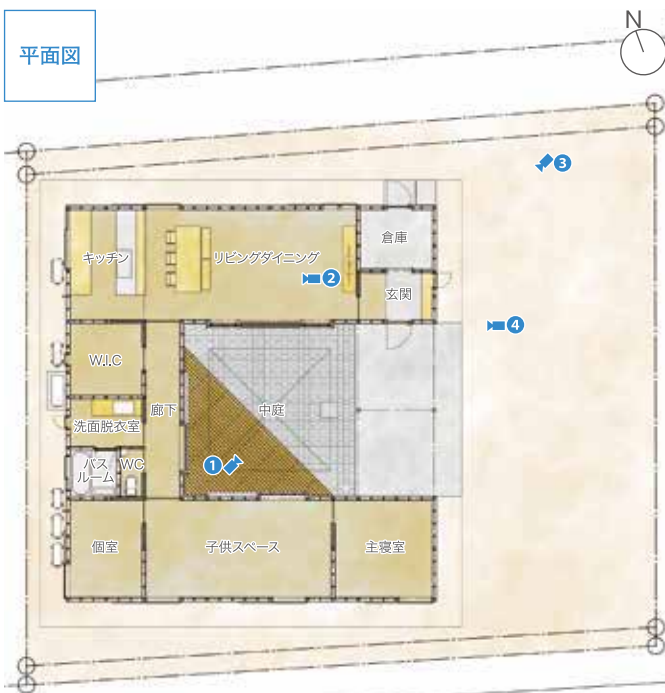
## ◎建物概要

建設地 鳥取県境港市 延床面積 128.15㎡  
 敷地面積 405.20㎡ 構造・規模 木造平屋建

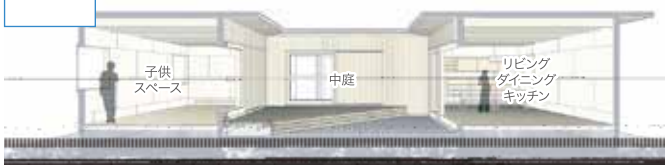
## ◎設備面の特記

厨房機器	IHクッキングヒーター
給湯機器	エコキュート
冷暖房機器	エアコン

## 平面図



## 断面図



## 設計コンセプト

現在は若いご夫婦と子どもが1人、将来は3人の子どもの希望する家族が住まう。敷地は鳥取県境港市、ご主人が生まれ育った場所からほど近く、東に幅員5mの前面道路、南北も幅員2mの狭い道路、その狭い道路を挟み2階建てと3階建ての住宅にも囲まれていた。  
 友人や親族が集まることの出来るプライベートな庭が欲しいとの要望もあり、平屋にするにも十分な広さがあったため、中庭を囲むカタチで「コ」の字型に諸室を配置し、「ロ」の字型の屋根を持つ住宅を設計した。  
 中庭は前面道路から地続きにつながり、柱、軒下空間、そこに落ちる影、中庭に敷設したセメントレンガなどが曖昧に領域を示し、家族の私的な空間を緩やかに確保されるよう計画している。

内装はシナ合板貼りを基調とするが、リビングダイニング、子どもスペースの大きな床面積をもつ場所は天井を構造現しとし、半割の梁間を杉板貼りとしている。その他の諸室は天井高を2,100mmに絞り、室の面積により適度な気積となるよう配慮した。木製建具やアルミサッシの枠についても、内装のシナ合板の目地、外壁の杉板目地により細かな寸法を決定するなど、内部と外部、詳細と全体のフィードバックを繰り返しながら設計を行っている。「ロ」の字型の屋根を大きく掛けることや、木質で柔らかな表情を持つ素材を用いることと同時に、細かな寸法監理を徹底することで、大らかな空間でありながら、凛とした表情を併せ持つ住宅を目指して建築した住宅である。

## 審査委員講評

ロの字型の平屋建て。幾何学プランで外観も端正、水平・垂直の構成が美しい建築です。内外とも、木が多用され、開口部の納まりや板張りも細かく計算されてつくられているせいか、暖かい雰囲気だけれど緊張感のある空間がつけられています。軒でトリミングされた正方形の空の変化が美しいだろうと想像されます。